

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600210		
法人名	NPO法人 ゆうあいネットあつま		
事業所名	グループホーム えがおの家		
所在地	勇払郡厚真町京町31番地1		
自己評価作成日	平成24年12月25日	評価結果市町村受理日	平成25年2月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様とのかかわりを一番に大切にし、関わりを持つ中でスタッフと利用者様が信頼関係を築きながら、日々の生活を楽しくおかしくわらって過ごせるよう努力しています。

ご家族や友人の他にも、近隣の方や職員の家族も一緒に参加できる行事をおこなったり、いつでも気軽に遊びに来ていただけるような雰囲気作りを行っています。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0193600210-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0193600210-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成25年1月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

**<地元の人々との交流促進>**  
地域の福祉のニーズを把握して、地元の人々が集まれるサロンの開設や「介護お気軽相談何処」の看板掲げ、相談事や日常生活のアドバイスをしながら認知症に関する理解や啓発に努めている。また、読み聞かせやカラオケ等のボランティアの受け入れや診療所医師・看護師との連携等地域とのつきあいを大切にしながら地元の人々と日常的に交流している。

**<職員の段階に応じた研修の機会の確保>**  
職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、外部研修への派遣や資格取得への支援、事例研究の発表会や自己啓発への推奨、職員自ら自己評価を実施して振り返る機会を確保するなど働きながら学べる(OJT)機会を確保している。また、職員の就業環境の整備に努めていると共に管理者・職員のモチベーションも高い。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	えがおの家 基本理念・ケア理念をそれぞれ作り、月二回のケア会議の場を利用して、理念をもとにしたケアが出来る様に話し合い、実践している。また、玄関・事務室・ケアステーション・休憩室等に掲示し、意思統一出来る様 努力している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作り上げ、ケア会議や日常業務を通じて理念を共有して実践につなげている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内行事に積極的に参加しち、ホーム内のイベントには近隣の方や町内のさまざまなサークルの方を招いて演芸を披露していただいたりと交流の場を設けている。	地域の福祉のニーズを把握して、地元の人々が集まれるサロンの開設や「介護お気軽相談何処」の看板を掲げ、相談事や日常生活のアドバイスをしながらか認知症に関する理解や啓発に努め、地元の人々と日常的に交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所玄関に「介護お気軽相談何処」の看板を掲げ地域の人たちの相談窓口を設けている。また、町内在住の職員は地域の安心ネット会員となっている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね二ヶ月に一回の会議を開き、地域包括・近隣住民の方や商店の方に参加いただき、利用者様の状況・ヒヤリハットや活動報告を行い、自由な意見を頂きながら情報交換し、サービス向上に生かしていく努力を行っている。	運営推進会議は2ヶ月毎に開催され、地域からの要望や事業所の取り組み等を具体的に話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センター職員にも参加いただき、実情を把握してもらいながら意見交換し協力関係を築いているが、積極的とは言えず、今後の課題としていきたい。	日常業務や情報交換等を日常的に行いながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員内部研修を行い、職員全員が理解し、ケアに取り組んでいる。夜間就寝後は防犯上 施錠しているが、早朝より解錠し日中は家族や来客者が自由に出入りできるようになっている。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を内部研修や事例研究等を通じて正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修に参加し、伝達講習や内部研修でも虐待防止について学ぶ機会を多くしている。また、事業所独自の虐待防止自己評価チェック表を作成し、職員全員で自分のケアを振り返ることで、虐待防止の意識を強く持ち、場面ごとに職員の行動が虐待にならないか話し合いながらサービスを提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	次回内部研修の講義内容となっている。個人的に資料を読んだり情報収集を起こなってはいるが、職員全員の理解としては現状は不十分であり、今後の課題としていく。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書の説明を十分に行い、不安や疑問を一つ一つ解決しながら理解していただいている。制度改正や利用料変更については、家族の方にあつまっていたき、説明を行い理解いただいている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より、利用者・ご家族とのコミュニケーションをしっかりと図り、ご家族の訪問時等にはご意見やご不満を伺えるよう声をかけ、都度改善に努めている。 「苦情・相談窓口」を玄関に掲示している。	利用者・家族等が意見や要望等を言い表せるように苦情・相談窓口の掲示をしている。また、家族や地域の人達が困りごとや相談などしやすいように配慮・工夫し、それらを運営に反映させている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や日々の申し送りにて意見を出し合い、業務改善に繋げる様取り組んでいる。	職員一人ひとりがケア会議等で意見や提案ができる機会を設け、外部研修への派遣や資格取得への支援など働きながら学べる(OJT)機会を確保している。また、職員の就業環境の整備に努めていると共に管理者・職員のモチベーションも高い。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者・管理者は職員に対してこころ配りがあり、職員が意見を言いやすい職場づくりに努めている。給与・労働時間も満足でき、やりがいを持って働ける環境となっている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に応じた外部研修会などに積極的に参加させ、働きながらの職員スキルアップに努めている。資格取得のための財政的支援を実施し、休憩室にはスキルアップのための参考資料等を配置している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年を通して町内及び近隣町のGHの催事に入居者様と参加し、互いにGHを訪問する機会を設けている。他のGHの職員がえがおの家を訪問してかくし芸等を披露するなど、限定的ではあるが、職員のネットワークづくりが進んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には事前にアセスメントを行い、今までの生活歴や本人の思考・趣味、また入居に当たり不安な部分を把握することで、本人の望む生活を支援出来る様 努力している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には本人様と一緒に見学していただいたり、ご家族様で来訪いただき、ホーム内の雰囲気や日々の生活の写真を見ていただくなどし、コミュニケーションを図りながら、不安や要望を話しやすい環境を作り、信頼関係が築けるよう努力している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接や入居初日に本人様ご家族様の意向をしっかり把握し、安心してサービスを受けることのできる様努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	する側・される側という意識を持たず、一つ屋根の下の住人として、共に生活していけるよう、家事・調理等を一緒に行い 協働し生活していけるよう努めているが十分とは言えない。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況報告をするようにし、本人様の想いを伝えるように努めている。ご家族も一緒に参加できる行事の機会を増やし、一緒に過ごす時間を確保できるようにし、また、町外の通院など協力を頂けることについてはお願いしている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人の面会時は居室やリビングで自由に過ごしてもらえ環境を作り、気軽に訪ねてもらえるような雰囲気や声かけを行なっている。なじみの美容室を活用したり、行きたい場所の希望があれば、極力対応できるよう努めている。	友人・知人の訪問支援や散歩、買い物、地元の行事参加等で馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。また、地域の人たちがよく事業所の見学や相談等で気軽に訪問する機会が多い。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性・性格等を把握しトラブルには充分注意し、自然な形で関わりが出来 支え合えるよう支援していくことを目指している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の転居先に伺うことはしていないが、ご家族様に会った時等は様子をうかがったりしている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントのほか、日々の生活の中で行動・言動・表情を観察し、希望や想いを汲みとるように努力している。また、家族からも情報を聞くように心がけている。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、菜園づくりや散歩等の支援など本人本位に検討している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居時に、本人・家族・ケアマネジャーより情報収集し、また 日常の関わりの中で昔話を聞くなどし、今までの生活や嗜好・趣味を把握出来る様かかわりを持っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で、言動や行動・表情をよく観察し、介護記録にはその情景がわかるよう記載して、申し送りを通して職員が情報を共有できるよう努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の情報や気づき、申し送り等で出た意見をケア会議の中で検討し、計画書作成を心がけているが、もう少し細やかなサービスが出来る様努力したい。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人・家族やケア会議を通じて職員の意見を反映し、現状に即した介護計画を作成している。また、介護記録との整合性が整備されている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体状況・認知症状等の把握に努め、申し送りやケア会議の中で、ケア方法の工夫や新しい試み等の意見を出し合い実践に移し、その後の状況・変化・結果を個人記録に残すことで、職員全員が情報共有でき、計画書見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状ではあまり新しいニーズがないが、家族対応が原則の町外通院を都合がつかない家族に対してはホーム対応で行っている。今後も希望に応じて柔軟な対応が出来る様努力していきたい。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事には積極的に参加し、また閉ざされた空間の生活にならないよう、読み聞かせ・カラオケ会やその他地域のボランティアの方に行事等で来訪いただき、一緒に食事を摂ってもらう等 沢山の方との交流を通し豊かな生活が送れる様支援している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの方が入居前からの主治医であり、緊急時や通院が難しい場合は往診していただける。診療所理事長が法人の顧問でもある為、日頃よりかわりがあり、良い関係が築けている。	診療所の医師・看護師との連携により、往診・訪問看護の利用で適切な医療を受けられるように支援している。また、受診は、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週二回派遣看護師の訪問があり、身体状況・体調変化等を報告し、相談しながら受診の必要性や対応を検討している。看護師不在日は医療面での気付きや利用者の訴えなどを「看護師連絡ノート」に記載し、情報が伝わるようになっており、緊急の場合や夜間は電話連絡が取れる体制である。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	現利用者様に入退院された方がいないが、入院になった場合は医療機関に情報提供し、入院中の状況や退院についての話し合いの場をつくり、早期の退院になるよう情報交換や相談を行っていききたい。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約説明時に「重度化した場合の看とり指針」の説明を行なっている。指針に沿った対応を行うこととしている。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合い、事業所のできることを十分に説明しながら指針を職員間で共有している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルはいつでも閲覧できるようになっているが、定期的な実践訓練等は行っていない為、今後の課題としたい。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練に職員全員が参加し、誘導方法や連絡体制を確認しているが、非常時の持ち出し物等の用意は出来ていない為、検討していきたい。ケア会議でも定期的な研修をおこない、意識付けを出来る様努めていきたい。協力体制としては隣人に緊急時の応援をお願いしている。	緊急時に速やかに対応できるようにAEDの配備や救急救命訓練や火災避難訓練を実施している。また、スプリンクラーや通報装置等の設備を完備し、定期点検も実施している。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	信頼関係を築きながら、その人その場に合った声がけを心がけている。	誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように内部研修や不適切なケアに関する研修を実施している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中の何気ない会話の中から、本人の想いや希望を汲みとるよう心がけている。また、メニュー表等を作り、自分で選び決定を出来る様な場面の提供を多く取り入れる様努力している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせ、その日の体調や気持ちに配慮しながら、希望に沿って入浴や外出が出来る様努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で整髪やひげそり・洗面が出来る方にも、身だしなみを気にかけ、乱れがあればさりげなく手直しし、外出などの際にはよそいきの服装を声がけしたり、一緒に選んだりしておしゃれが出来る様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自分たちで作った野菜や旬の食材を用いて、皮むきや盛り付けなど個々の出来ることを見極め、役割を持てるよう支援している。食器拭き等の片付けも強制にならないよう声かけに配慮し、一緒に行っている。	一人ひとりの好みや力を活かしながら、菜園での野菜の収穫や調理の準備・盛り付け・味付け・後片付け等利用者と職員と一緒にやっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に食事量・形態を把握し食べやすい工夫押しながら対応している。水分量は一日を通して1500ccを目標とし提供しているが、利用者様が自由に飲めるような工夫をしていきたい。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後出来ている方は少ない。定期的な研修を開き、職員が口腔ケアの重要性を理解し、利用者様に伝え実践出来るように取り組んでいく必要がある。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、声かけやその人に合ったパットの検討を行っている。尿意の無い方もトイレでの排泄が継続できるよう、支援している。	一人ひとりの力や排泄パターンを排泄チェック表等で把握し、声かけや誘導などでトイレで排泄できるように支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食品や果物など提供し、自然排便が出来る様取り組んでいるが、下剤で調節する事も多い。排便管理票を検討しながら看護師と連携を図り無排便が続かないよう支援している。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は一応決まっているが、毎日・午前も午後も入れるようになっている。本人の希望に合わせ無理強いることなく入浴し清潔が保てるよう努めている。首蒲湯やゆず湯も1日だけではなく皆が入れるよう日にち設定している。	入浴が楽しめるように一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて支援している。また、浴室は、清潔感が漂っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活状況を把握し、体調や希望に応じ自由に休めるように努めている。夜間良眠出来る様、日中の適度な活動を今後は多くしていきたいと思っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ファイルを作成し個々の内服している薬の情報をいつでも確認出来るようにしてある。服薬時は誤配・誤薬のないよう、その場のスタッフ全員で確認を行い自分で飲む方でも落とさないよう飲み込むまで確認している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の行事を大切に提供している。その他にも個々に楽しめる遊びや大勢で行うレク等も今後多く取り入れていきたい。一人一人の出来ることやりたいことを把握し、掃除や調理 畑仕事など役割を持つことで、意欲を持って生活できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やその他希望の外出に極力添えるように努めている。外出行事以外の町外の外出はご家族様の協力を頂いている。	一人ひとりのその日の希望にそって、菜園での野菜の手入れや収穫、ドライブや馴染みのスーパーでの買い物、お寿司屋さんでの外食など普段では行けないような場所への訪問支援をしている。また、前庭でのバーベキューやパークゴルフ参加など楽しみごとへの支援もしている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に本人・家族と相談し希望があれば本人が所持し、好きなものを買える様支援し、買い物時に自分で支払っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に自由に電話を使えるようになっている。自分でかけられない方には職員が援助する。ご家族あての年賀状の支援も行っている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・リビング・廊下等に季節の移り変わりが感じられる飾り物をしたり、利用者様の作品を飾ったりしている。ホームの外玄関や外庭にも飾り付けを行い、地域の方たちにも見ていただけるような工夫をしている。	リビングや廊下には、ソファやテーブルが配置され、ひとりになったり談笑ができるように工夫されて居心地良く過ごせるよう工夫している。また、共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの他に「離れ」があり一人で過ごすことも出来る。気の合う同士で過ごせるよう席の配置を工夫している。テレビ前は広くスペースをとり集まりやすい空間を作っている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前には出来る限り使い慣れたもの、ご自宅にあるものを持ってきていただけるようご家族様に協力いただいているが、利用者様によっては寂しい空間になっている方もいる為、なじみのもの・生活環境の重要性を理解いただき、生活感のある居室環境を作っていききたい。	居室には、使い馴れた家具や家電製品、家族の写真や仏壇等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口には表札を掲げ、浴室には暖簾を掲げるなどして一人でもわかるように配慮している。各所には手すりがあるが、日々の生活の中で追加して手すりが必要と思われるところには対応し、自分で出来る力を継続していける様努めている。		



## 目標達成計画

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	48	楽しく行事を盛り上げたり、日々の生活での関わりや役割の提供を出来る職員が限られている。	利用者様と信頼関係を築いていく重要性を職員全員が理解し、日々の関わりの中でかたよなく笑いのある生活や役割提供が出来るようにする。	ケア会議や内部研修を利用し、職員一人一人が利用者様と適切な関わりを持てるように指導する。	1年
2	43	排泄誘導やおむつ交換に強い介護拒否がある利用者様に対し、うまく対応できていない。他人任せにしている事がある。	どのような利用者様に対しても職員全員が適切なケアが出来、強制ではなく穏やかにケアが受けられる環境を作る。	拒否があっても時間を置いたり、気持ちが前向きになるような声かけに時間をかけて無理強いすることなく、本人の意欲を引き出すような関わりを持つ様にしていく。	1年
3	18	世話になって申し訳ない、迷惑ばかりかけてすまない等 職員に遠慮している利用者もいる。	利用者様が自分は役に立っている、頼ってもらえるという思いを持ってもらえるように支援していく。	食事の準備・片付け・掃除等の作業と一緒にやっていく場面を多く作り、感謝の言葉を真心こめて伝え、達成感を味わえるような関わりを持つ。	1年
4	42	口腔ケアがきちんと出来ていない利用者様がいる。	利用者様全員が毎食後の口腔ケアが出来るようにする。	職員が口腔ケア大切さを理解し、知識・技術のレベルを高く持ち、利用者様に強制ではなく大切さを伝えながら気持ちよく清潔をたもてるよう関わりをもっていく。	1年
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。